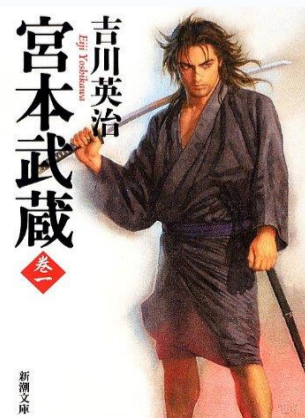




日本の文学には純文学と大衆文学という分類がある。この分類は作品の文学的価値と娯楽性を分離してしまった。純文学では私小説が流行し、トルストイの『戦争と平和』のようにスケールが大きく読者の胸を高鳴らせるような作品は少なくなってしまった。『読書のスルメ』の目的は大学生の皆さんに読書って楽しいんだという体験を味わってもらうことにある。そこで皆さんにスルメたいのは時代小説である。吉川英治の『宮本武蔵』はまさにその代表格である。とにかく面白い。文庫版で8巻だが、私は中学生の時、数日間で一気に読んでしまった。武蔵、沢庵、柳生石舟斎などは実在の人物だが、お通、又八、城太郎などは架空の人物である。後者が加わることによって恋愛、友情、親子などのテーマが絡んだヒューマンドラマにもなっている。彼らの人生行路は偶然が何度も重なって交錯していくので息をつく暇がない。やはり山場は剣術勝負の場面である。作者による迫真の筆致によって映像では不可能な緊張感を味わうことができる。武者修行の話だから戦いはこの小説に不可避である。しかし武蔵が求めたのは人を活かす剣である。逆説的だが彼の目標は人間どうしの争いを否定することにあつたと私は理解している。本書は剣豪小説ではあるが、実は深い世界観に裏打ちされている。巖流島の決闘に全てが集約されていくストーリー展開に心躍らせるだけでない。求道者の生き方から皆さんが汲み取ることはきっと多々あるだろう。



吉川英治(2013)『宮本武蔵』1巻～8巻. 新潮社

生田分館: X/080/Sh61/Yos

Knowledge Base: 913.6/Y89/1~8 701662934 ~

